

九州低暖地畑作地帯に於ける 青刈飼料作物導入に関する基礎研究 (予報)

松 本 聰

九州農業試験場

Matsumoto, S. Foundational experiments concerning the silage crops for introducing into the cropping system on the warm region at low altitude in Kyushu (Preliminary report).

I. 緒 言

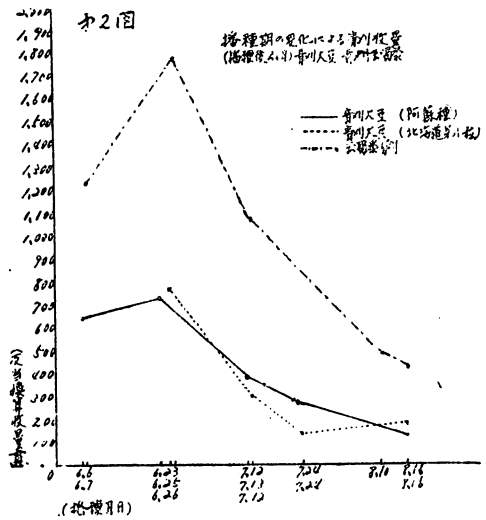
栄養価の高い多汁な青刈飼料作物を集約に輪換栽培し年間平均に家畜に粗飼料を給与することは、草地の少ない九州低暖地の畑作経営に極めて重要な問題である。筆者は、これらの青刈飼料作物を農家経営に導入する目的で青刈飼料作物栽培の基礎試験を実施した。

本年度は都合で試験開始がおくれ6月より栽培試験にとりかゝつた。

本試験は継続中であるが、その一部を報告する。

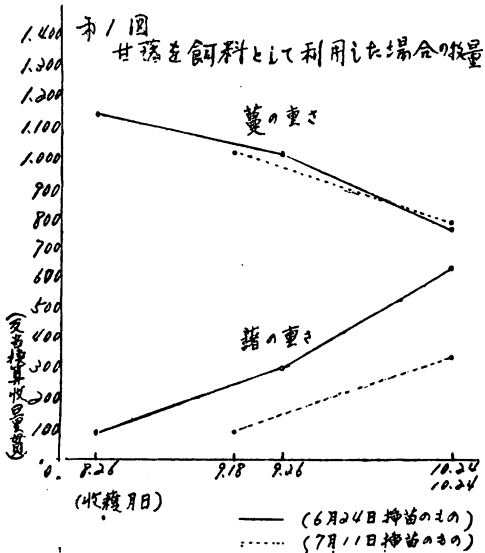
試験目的は、(1)青刈飼料としての適作物、適品種の選定、(2)各作物の播種時期、刈取回数の検討、(3)他作物と青刈飼料作物の混作、間作の検討、(4)経営全体より見た青刈飼料作物の作付方法の確立、(5)青刈飼料作物栽培の所要労力調査。

本報告は、上記項目中の(1)、(2)に属するものである。



第1表 試験期間中の気象

		気 温 °C	雨 量 mm
6 月	上	21.86	67.5
	中	24.07	35.0
	下	24.81	102.8
7 月	上	26.79	119.4
	中	28.56	29.5
	下	30.92	23.3
8 月	上	29.86	37.0
	中	27.93	153.0
	下	25.98	8.7
9 月	上	26.39	4.0
	中	25.00	188.3
	下	21.06	28.9
10 月	上	19.33	38.0
	中	20.50	4.2
	下	16.93	—



第 2 表 青 刈 作 物 生 草 收 量

青刈作物名	播種月日	收穫月日	草 丈	分枝数	節 数	坪当茎重	反当換算 茎重收量	坪 当 根 重	反当換算 根重收量
	月日	月日	cm			貫	貫	貫	貫
青 刈 大 豆 (阿蘇一號)	6. 6	8. 6	98.95	2.46	14.42	2,107	632,100	—	—
	6.23	8.25	105.54	2.31	16.32	2,375	712,500	—	—
	7.12	9.12	69.06	3.09	14.56	1,320	398,700	—	—
	7.24	9.30	65.68	3.06	12.10	0,902	180,600	—	—
	8.16	10.17	44.66	1.62	11.01	0,412	123,600	—	—
青 刈 大 豆 (茶小粒 北海道産)	6.25	8.25	99.51	3.57	13.75	2,550	765,000	—	—
	7.13	9.16	72.31	3.16	11.13	0,999	299,700	—	—
	7.24	9.30	62.59	2.29	11.90	0,428	128,400	—	—
	8.16	10.17	47.21	1.42	9.35	0,575	172,500	—	—
青 刈 玉 蜀 黍 (阿蘇種)	6. 7	8. 7	223.46	—	13.90	4,092	1,227,600	—	—
	6.26	8.26	227.73	—	13.53	5,887	1,766,100	—	—
	7.12	9.12	254.09	—	14.85	3,560	1,068,000	—	—
	7.24	—	—	—	—	—	—	—	—
	8.10	10.10	161.42	—	10.63	1,590	477,000	—	—
8.16	10.16	148.17	—	11.61	1,346	403,800	—	—	
青刈陸稻	6.24	8.25	82.99	4.15	—	0,560	168,000	—	—
青刈粟	6.23	8.24	106.49	—	—	1,662	498,600	—	—
甘 藷 (沖繩 100号)	6.24	8.26	—	—	—	3,793	1,137,400	0,315	94,500
	6.24	9.26	—	—	—	3,460	1,038,000	0,968	290,400
	6.24	10.24	—	—	—	2,537	761,100	2,123	636,900
	7.11	9.18	—	—	—	3,500	1,050,000	0,310	93,000
	7.11	10.28	—	—	—	2,552	765,600	1,105	331,500

備 考 各作物共青刈收量調査は播種後 60 日で行つた。

II. 試験方法の概要

1 供試作物。大豆（阿蘇1号，茶小粒），玉蜀黍（阿蘇種），陸稻（農林11号），粟（地磨），甘藷（沖繩100号）。

2 供試面積。区制，5坪，2区制。

3 施肥量（反当貫）。硫安5，過石7，塩加2，堆肥300。

4 播種方法。畦巾2尺（甘藷畦巾2尺，株間1尺）各作物共6月上旬より20日毎に順次播等した。

播種量は（反当升）大豆5，玉蜀黍9.5，陸稻5，粟0.5，甘藷6,800本で條播した。

Ⅲ. 試 験 成 績

試験期間中の気象概要は第1表の如くで、雨量は少く早魃であつたが、後半に於て颱風に伴う降雨が度々あつた。各作物の収量は第2表、第1、2図に示す通りであるが、各作について見ると、甘藷を飼料として利用する場合の収穫適期は諸重の最高となる10月中旬以降であるが、その場合新鮮な藷蔓の利用期間は初霜の関係で極めて短時日であつた。青刈大豆では両供試品種共6月中旬播のものが最高青刈収量を示し、以下播種期のおくれるにしたがつて収量は減じた。北海道産のものと熊本地方の秋大豆は青刈収量では大差が認

められなかつた。玉蜀黍では6月中旬播が最高の青刈収量を示し、以後の播種期のものは減収しておつたが、特に8月に播種したものは青刈収量は顯著に減収した。粟、陸稻については、本年度の試験では発芽が不良で成績が出なかつた。

Ⅳ. 結 び

夏作青刈飼料作物について予備的な試験を行つたのであるが、以上の試験成績により、各供試作物の夫々の播種期による青刈収量を見たのであるが、今後更に詳細に検討する計画である。